

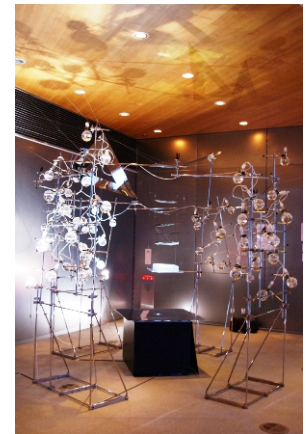
シアノバクテリアの時空間パターン形成と生命美学

岩崎秀雄

造形作家, metaPhorest (生命美学プラットフォーム), 早稲田大学 理工学術院 教授

www.f.waseda.jp/hideo-iwasaki, www.facebook.com/metaphorest.net

生命の探究は、生物学が制度化する 19 世紀より遙か昔から、哲学や芸術の主題であり続けてきました。では、そうした古来の、あるいは日常的な「生命の探究」と、現代生物学的生命像の関連性はどのようなものなのでしょう？ これ自体が「生命美学」の中心的課題なのですが、それについて議論するには生物学と、哲学的文学的生命論と、科学技術社会論と、そして芸術を同時にパラレルに展開しながら議論するプラットフォームが必要です。それが、metaPhorest という「理芸混在研究プラットフォーム」です。ここでは、通常の科学研究と共に、芸術分野の作家たちが出入りし、生命やバイオロジーに関わる学際的な議論や制作を展開しています（いわゆるアウトリーチや、科学の理解増進活動ではないことに注意してください）。実際に僕が関わってきた創作活動と、そのスピノフとして生み出されてきた生物学のプロジェクト（シアノバクテリアの自己組織的なコロニーパターン形成の研究）について紹介しようと思います。



<講演者プロフィール>

岩崎秀雄 metaPhorest (生命美学プラットフォーム) 主宰, 早稲田大学理工学術院教授

専門: 生物学・造形美術。科学と芸術の境界線で活動しています。シアノバクテリアの時空間パターン形成(概日リズム, コロニーパターンの形態形成)の研究を行う傍ら, 生命科学・生命探究に関連する現代芸術の創作・探究の場を提供し, 精力的に制作活動を展開しています。

<文献>

- 岩崎秀雄 (2013) 『<生命>とは何だろうか: 表現する生物学, 思考する芸術』(講談社現代新書)
- 岩崎秀雄 (2011) 「バイオメディア・アート: 生命と芸術の臨界を巡って」 *実験医学増刊* 29(7): 1188-1196
- 岩崎秀雄 (2010) 「バイオメディア・アート: 美学的見地から観た合成生物学の可能性」 *科学 (岩波)*, 747-754
- Tomita, Nakajima, Kondo & Iwasaki (2005) "No transcription-translation feedback in circadian rhythm of KaiC phosphorylation." *Science* 307, 5707: 251-254